



萌 木 7 月 号

～自尊・立志・感動～



調布市立第七中学校

校 長 山 田 勝

令和 3 年 7 月 9 日 発行

当たり前のこと

校長 山田 勝

1年ぶりの本格的な夏休みが、始まります。しかし、夏休みでも新型コロナウイルス感染対策を最優先に考えなければならぬことは、1学期と変わりません。今までの夏休みとは、明らかに違う生活を過ごさなければなりません。

37日間の夏休み。一人一人に、公平に同じ時間があります。その時間をどう使うのか、決めるのは自分自身です。自分自身の成長のために夏休みをどう過ごすかしっかりと考えてほしいと思います。

1学期は新型コロナウイルスと共にある生活が続く中でしたが、体育祭も規模を縮小し保護者の皆様の観戦もご遠慮頂く中でしたが、実施することができました。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の期間で、活動に制限がかかりながらやれることに取り組む日々でした。一つ一つの活動をどのようにつなげるのかなど、中々見通しがもてない状況での活動でした。そのような中でも、今やっている活動に自信を持って取り組んでほしいと考え、6月の朝礼では次のような話をしました。

体育祭や期末考査では、皆さんはどのような目標を立てて、取り組みましたか。また、その目標は達成できましたか。まだ振り返っていない人は、ぜひ振り返りをしてみましょう。達成できたか、できなかったか、だけでなく、どうしてできたのか、できなかったのか、何が足りなかったのか。もし戻れるなら、どうすればよかったのかを考えてみましょう。

そのように考えることが、きっと皆さんのこれからに役立つはずです。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出ている、緊急事態といわれる状態が日常であることが、この1学期でした。私たちはどうしたらいいのでしょうか。

およそひと月前のことです。学校から帰る途中、ちょうど八雲台小の交差点で信号待ちをしていた時のことです。神戸屋側で七中生も一人信号待ちをしていました。青に変わり渡ろうとしたとき、調布方面から救急車の音が聞こえてきました。そのとき、信号待ちをしていた何人かの先頭で一步を踏み出していた七中生が後ろに戻ったのです。それにつられたかのように他の人も救急車に道を譲っていました。これくらいなら先に渡れるかなと行動するのではなく、救急車の通行を優先する、当たり前の取り組みをみて、とても頼もしいなと思いました。

緊急事態である現在、マスクやソーシャルディスタンスなど、これくらいいいかな、ではなく当たり前のことを当たり前に取り組むことが私たちにできることなのではないでしょうか。皆さんはどう考えますか。

残りひと月となった1学期。はっきりとした見通しが持ちづらい中ですが、今までの振り返り、そして、このひと月をどう生活していくのか目標を持ち、当たり前のことにしっかり取り組む、そのようなことができる七中生であってほしいと思います。

夏休みが、やがて始まります。校訓「自尊・立志・感動」に基づいた目標を立て生活することで、夏休みを自分自身にとって有意義なものにしてほしいと思います。

○「自尊」【自分を大切に、思いやりの心を持つ生徒】

一人一人はかけがえのない存在です。「自分を大切に、他の人を大切にする」ことを意識して生活することで、感染対策やSNS等のトラブルを起こさない等、当たり前のことにしっかり取り組んでほしいと思います。

また、家族の一員として、家族のために自分の出来る事を見付け、積極的に行なうことで、改めて「自分の大切さ」や「思いやり」を学べると思います。

○「立志」【夢や目標を持ち、絶えず学び続ける生徒】

・自分の興味・関心のあることについて、さらに学習を深めてほしいと思います。休み中の自発的な学習は、自分を高め、自信につながります。

○「感動」【心と体を鍛え、感動を生む生徒】について

・感染症対策・熱中症対策をしっかり行い、体を鍛えるとともに、心を鍛えることで、真に強い自分になってほしいと思います。

3年生保護者の皆様

先日は修学旅行説明会に多数のご参加をいただきありがとうございました。説明会でもお話ししましたが、現時点で実施に向け、できる準備に取り組んでいるところです。ただ、今後の感染状況により中止や延期等の対応になる可能性もあります。その際は長期休業中でも安全安心メールでお知らせしますので、よろしくお願い致します。